

■ 目標値未達成の要因について

法人名	株式会社大阪鶴見フラワーセンター
-----	------------------

〔1〕

成果測定指標	単位	R7年度目標値	R7年度実績値	目標値との差
当期経常利益	千円	23,000	△ 4,640	△ 27,640

未達成の要因					要因分析（要因と考える根拠）					要因分析を踏まえた今後の対応
①	売上高の減少				天候不順や猛暑による花きの品質低下・入荷量の減少・出荷時期のずれ、物価高による買い控え等のため、R7年度は特に、卸売会社の売上高の9割以上を占める切花の単価・取扱量が減少し、卸売市場での取扱高に応じて場内事業者から徴収する「売上高使用料」が当初想定に比べて約4,900万円減少した。 ＜切花の単価・取扱量＞ ・R7目標設定時 単価：70.8円、取扱量355,599千本 →取扱金額25,176百万円 ・R7実績 単価：63.8円、取扱量339,306千本 →取扱金額21,658百万円 （R6実績 単価：69.6円、取扱量356,756千本 →取扱金額24,819百万円）					近年の気象状況や社会情勢を踏まえると、猛暑による花きの品質低下等への懸念や、物価高による買い控えの傾向が継続することなどが見込まれる。 交流施設跡の改修による市場機能向上や他市場との連携拡大による取扱量の増加等に加え、交流施設跡4・5階の活用等による新たな収入確保の取組みを進め、より安定的な収益構造の構築を目指す。
	関連項目名	売上高使用料	単位	千円	R7当初想定値	375,500	R7実績値	326,305	差	

※補足：会計処理の変更に伴う費用（設計業務の委託料）のR7当初想定額からの減少について
令和7年度の目標設定時には、垂直搬送機設計業務の委託料（14,000千円）について、委託期間が令和8年6月末までであるところ、令和7年度の費用として計上していた。一方、令和7年度決算において当該委託料の会計処理方法を変更することとなり、令和8年度における垂直搬送機の固定資産計上額に含めることとなった。このため、令和7年度の費用には当該委託料は計上されておらず、目標設定時に想定していた費用との間に差が生じている。

■ 目標値未達成の要因について

法人名	株式会社大阪鶴見フラワーセンター
-----	------------------

〔2〕

成果測定指標	単位	R7年度目標値	R7年度実績値	目標値との差
廃棄物の再資源化率	%	78.0	75.4	△ 2.6

未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）					要因分析を踏まえた今後の対応	
①	再資源化が困難な廃棄物の構成比の上昇			R7年度目標値は、中期経営計画に基づき、これまでの実績の最大値（R5年度実績値）である78.0%をめざし設定。 令和7年度は、酷暑や物流の長時間化（2024年問題）などが花き類の品質保持に影響し、廃棄ロスが増加した。花き類は再資源化が困難で一般廃棄物として処理されるため、一般廃棄物の構成比が上昇した。 【廃棄物総量に占める一般廃棄物の割合】 ・R5年度実績：20.4%（183t／総量897t） ・R7年度実績：22.9%（191t／総量832t） ※R5年度比 +2.5% また、再資源化が可能な廃棄物の大半が段ボールである中、R7年度は廃棄物総量に占める段ボールの割合が低下した。 【廃棄物総量に占める段ボールの割合】 ・R5年度実績：66.1%（593t／総量897t） ・R7年度実績：64.4%（536t／総量832t） ※R5年度比 ▲1.7% こうした結果、R7年度の廃棄物の再資源化率は目標値から2.6%低下した。					市場開設者として可能な取組みとして、定温保管が可能な区画の整備等、再資源化の難しい花きの廃棄ロスの削減に資する環境整備を計画している。また引き続き再生資源（紙類、プラスチックなど）について場内事業者、廃棄業者と密に連携して処理を徹底する。	
	関連項目名	廃棄物総量に占める一般廃棄物の割合	単位	%	R7当初想定値	20.4（R5実績）	R7実績値	22.9	差	△ 2.5